

# 全教神協広報

第一〇五号

全国教育関係神職協議会

〒一〇〇五三

東京都渋谷区代々木一丁目二

電話 〇三三三三三九八〇一

FAX 〇三三三三三九八〇一

〒父 〇三三三三三九八〇一

〒子 〇三三三三三九八〇一

〒孫 〇三三三三三九八〇一

〒曾 〇三三三三三九八〇一

〒高 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

〒親 〇三三三三三九八〇一

〒祖 〇三三三三三九八〇一

## 平成より令和へ

全国教育関係神職協議会 副会長 寶來 扶佐子



本年四月末日をもって平成の御代が替わりました。直ちに踐祚された新天皇を戴き、明くる五月一日に、令和という時代が始まりました。連綿と続くこの日本の歴史の中で、明治、大正、昭和、平成という時代は、特に世界の中における今の日本の在り様を紐解く要因を秘めていると考えられます。昭和二十年八月に、国を失う危機の後、二十七年に再生日本の復権から長きに亘り蝕まれたとも言える我が民族の誇りと歴史。その反面、経済、産業などは飛躍的な成長を遂げました。激動の昭和から平成

に移り、約三十年あまりの時代を通じて私達全教神協の先人たちが共に、教育に携わる神職としての使命を全うすべく模索して参りました。今新しい時代「令和」を寿ぐために、も、歴史、特に「平成」を省みて、為らねばならないのにやり残した事、見過ごした事、してはいけない事、事を考察し今後の糧にしたいと思えます。歴史は変えられませんが、今後の歴史を誤った方向に向かわせない努力はできます。

バブル期の中、平成元年は幕を開けますが、この年は、消費税が導入、リクルート事件の発覚が尾を引き、短命内閣（竹下、宇野、海部）で、政治の弱体を晒しました。国外では、天安門事件、ベルリンの壁の崩壊が世界を揺るがせました。しかしバブル好調期の日本は、当時世界企業時価総額ランキングで、上位五十社中三十二社が占めていました。因みに、三十年後は、トヨタ一社のみです。

天安門、ベルリンはその後連鎖的にソ連邦解体、東欧の変革へと世界中の流れを変えていきました。東西冷戦の終結です。

翌二年、この世界情勢の中で、日本の謝罪外交が始まるのです。盧泰愚大統領との晩餐会における首相の謝罪に始まり、長崎での平和式典で謝罪、訪北朝団の国交無き国との賠償支払い、この辺りから、どうして？何故？と思われる方向に向かうのです。この中、イラクのクウェート侵攻から湾岸危機、原油高騰から、株価暴落、急激な金融引き締めにつながり一挙バブルの崩壊に向かったと思われず。国内が狂騒の中一喜一憂している間、湾岸危機の対応に世界が動いていましたが、日本は『九条』の擁護によりペルシヤ湾岸の石油依存度一位の国なのに出来る事は殆ど出来得ませんでした。この一事は、長く日本に対する評価を下げています。百三十億ドルの支援金と、避難民輸送のための自衛隊機の初派遣にもかかわらずです。これをきつかけに、日本のPKO法案が通り、以後の派遣協力が始まりました。

H首相による、侵略戦争発言。K外相の談話、トップたる者の発言は、如何に長く、又メディアの増幅によって広く喧伝されるかは実証されております。

九州普賢岳の大火砕流、社会党村山政権、その最中の阪神淡路大震災、この時の村山首相の決断は評価されています。しかし兵庫県のトップ判

断は疑問を残しました。しかし、自衛隊無くしてはその後の迅速な復旧はあり得ませんでした。サリン事件に始まるオウム真理教の問題もこの年です。禍根を残すM談話はこの年発表されています。十三年、アメリカ同時多発テロをきっかけにアメリカは世界の警察官を止める方向に向かいます。自国は自国で守るべきなのは言われるまでも無い事です。その十年後、東日本大震災が起き、自衛隊、各国よりの支援救援活動を受けました。その他、地震、風水害、台風様々な天災が起ったのもこの平成年間です。

平成は、国内外を問わず天変地異が多かった事は皆の記憶に残っているでしょう。その中で、現在の上皇陛下御夫妻の、民に寄り添い祈りの皇室のお姿は広く深く人々の心に染み渡りました。元号は、『書経』から「地平らかに天成る」からとられてますが、まさにその様を体現されてこられた事と感じます。

もう一つ特記すべきは、十八年に実現した約六十年にピリオドの一步になった教育基本法の改革でした。「道徳心」「我が国と郷土を愛する」「伝統と文化を重んずる」当然を明文化した事に決意を感じます。

今の日本があるのは、先人のおかげ。百二十六代にわたる皇室と、英霊を含む全ての人々への思いを込めて、託された日本のこれからをしっかりと歩む一人でありたいと願うばかりです。